



ご挨拶

第31回日本産婦人科・新生児血液学会
学術集会会長 **金井 誠**
信州大学 医学部保健学科 教授

第31回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会は、2021（令和3）年6月4日（金）～5日（土）にWebでのライブ開催、引き続き6月13日（日）までWebでのオンデマンド開催いたします。信州松本での開催は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）第4波の急速な感染拡大により断念せざるを得ませんでした。伝統ある本学会の学術集会長を拜命いただいたことは大変光栄であり、会員の皆様にとって有意義な学術集会となるよう鋭意準備を進めています。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大は、人と人との直接的な接触や物理的な繋がりを断ってしまう流れを生んでいます。一方で、Webを利用した新たなコミュニケーションは、実際の距離と時間を飛躍的に縮め、組織や人の新しい繋がりを生み出しました。今回の学術集会のテーマ「繋がる」は、本学会における職業人としての組織や人の繋がりはもちろん、過去・現在・未来の繋がりにから継続とイノベーションが生まれることを意識し、ベテランから若手まで、多職種が繋がり、活発な議論が展開されることを期待してのものです。COVID-19の収束は見通せない状況ですが、学問と医療の発展を停滞させてはなりません。一堂に会しての議論はできませんが、Webを介しての議論と学修を通じ、本学術集会が皆様方にとって有益な機会となれば幸甚です。

教育講演として、信州大学小児科学教室の中沢洋三先生に「難治性がんに対するCAR-T療法の開発～臍帯血の可能性～」、奈良県立医科大学化学教室の酒井宏水先生と防衛医科大学校生理学教室の萩沢康介先生に「人工赤血球の開発と臨床応用」、浜松医科大学産婦人科学教室の伊東宏晃先生に「Developmental Origins of Health and Disease (DOHaD)：妊婦の栄養摂取の視点から児の長期的な予後を考える」という未来に繋がるご講演をいただきます。さらにシンポジウム『血液から見える未来～NIPTの普及で何が変わるか～』、産科DICセミナー『産科DIC管理の最前線』、5つの共催セミナーなどの企画を準備しております。

松本での学術集会開催は1996年の第6回（小宮山淳会長、信州大学医学部小児科教授）以来、25年ぶりの予定でした。松本は、学都・岳都・楽都の3つの『がくと』を看板にした、自然豊かで快適な土地です。COVID-19が収束した暁には、信州の澄んだ空気と美味しい水、歴史と風情のある街並み、多くの温泉や絶品のお酒と郷土料理などをご堪能いただくよう、ご来松していただけますと幸いです。今回は、Webを介してではございますが、皆様とお会いできることを心より楽しみにしております。